

日本事務機新聞

No.1902 (毎月第1.2.4月曜日発行)
(昭和45年3月27日第三種郵便物認可)

Press The Japan Business Machine

http://www6.ocn.ne.jp/~jimuki Eメール njs@skyblue.ocn.ne.jp



「エコオフィスEXPO」で注目集めた「RECOTiO」

デュプロ精工

デュプロ精工(和歌山県紀の川市、池田弘樹社長)は、このほど開発した小型製紙装置「RECOTiO P M 1100」を「第1回エコオフ

0」を「第1回エコオフ イスEXPO」(7月7日、9日、東京ビッグサイト)に出展し、多くの反響を得た。

「RECOTiO」は、使用済みのコピー用紙を溶解しインクと繊維に分離したあと100%再生紙に甦らせる新しいタイプの古紙リサイクル装置。オフィス内にも設置可能なため、環境保全だけでなく機密保持にも

を除去し、印字成分は泡とともに排出。そのあと紙を抄(す)く作業を行う、乾燥、定型サイズにカットし、再生紙を排出。このような製紙工場と同等の工程を1台で処理する(原料回収・投入・溶解・精選・脱墨・抄紙)の言葉を組み合わせただ

使用済みのコピー用紙を真っ白な再生紙に甦らせる「RECOTiO」は、「エコオフィスEXPO」の数多くの出展社の中でもひと際注目を集め、デュプロ精工には1千名を超える企業ユーザーが来場した。その約4割は上場企業で、「環境対策だけでなく機密保持の観点で導入を検討したい」という声も聞かれるなど終日賑わった。仁坂吉伸和歌山県知事も視察のため来場した。

社内に製紙工場

真っ白な100%再生紙

貢献する。
一般にシュレッダーにかけた用紙のほとんどは焼却処理されるのが現状。「RECOTiO」は内蔵したシュレッダーで用紙を細断し、水を加えてかき混ぜ、繊維段階まで分解する。トナー成分

↓断裁。
1時間にA4サイズの用紙360枚を生産。導入するとCO₂排出量を約65%削減し、年間約88本の植林木を救済することになる。機密文書処理が内製化できるので

来月 インテックス大阪で実演

自の造語で、「ペーパーワークに関わるさまざまな機器を提案してきたデュプロが「リサイクルやエコを継続的に行う」ことを使命として名付けた。関西地区での初披露は9月1日、3日、インテックス大阪で開かれる「N-EXPO/KANSAI2010」(「ネキスポ関西」)。